

東京医療保健大学大学院 感染制御実践看護学講座 平成29年度 受講生第3期募集案内



《現職業務を継続しながらの受講が可能》

感染防止対策加算1の要件となる担当看護師の養成基準による講座

東京医療保健大学大学院医療保健学研究科「感染制御実践看護学講座」は、平成22年度診療報酬改定において新設された感染防止対策加算の施設基準のひとつである「適切な研修」として、厚生労働省より認められ、平成22年度から開講しています。本講座修了生には、修了証を授与すると共に、感染制御実践看護師の称号および認定証を付与します。現在、修了生は全国各地の自施設で、施設上層部の理解を得て、大いに活躍の場を広げています。

平成29年度「感染制御実践看護学講座」募集概要

- ◎募集人員：20名
- ◎受講料：756,000円（保険料、実習費用等の諸経費を含む）前納一括払い
（その他講座開講中に発生する教材費等については別途徴収する場合があります）
- ◎出願期間：平成29年2月13日（月）～平成29年3月3日（金）必着
- ◎試験日：平成29年3月11日（土）実施 午前9時開始予定
- ◎試験方法：筆記、面接、書類審査
- ◎合格発表：平成29年3月17日（金）
- ◎開講日：平成29年4月28日（金）開講（講義、実習等 約6ヶ月間）
- ◎問合せ先：東京医療保健大学大学院「感染制御実践看護学講座」事務局
〒141-8648 東京都品川区東五反田4-1-17
TEL: 03-5421-7685
e-mail: kansenkouza@thcu.ac.jp

詳細は本学ホームページをご覧ください。 <http://thcu.ac.jp/>

感染制御実践看護学講座

感染制御実践看護師育成を目的とし、現在勤務している自施設の業務を継続しながら受講できる教育カリキュラム（週末講義、集中講義、指定施設実習、自施設実習、課題演習など）を編成し、本学の大学院医療保健学研究科（修士課程、博士課程）の感染制御学領域の教育スタッフと、外部の感染制御専門家によって講義が行われます。講義期間中には定期的に課題レポートが課せられ、担当教員より個別指導が行われます。

■施設実習（指定施設・自施設）

指定施設実習は、感染制御を先鋭的に実践している施設において1週間の実習を行います。自施設実習は、指定施設実習での経験をもとに、自施設の現有組織を活用し日常活動を重視した実習を約2ヶ月間実施します。

■講座修了時

本講座修了試験に合格した看護師には、東京医療保健大学大学院から、厚生労働省の感染防止対策加算の施設基準による感染管理に係る専任の看護師として「感染制御実践看護学講座」の修了証を授与すると共に、認定感染制御実践看護師（Certified Professional Nurse for Infection Prevention and Control/PNIPC）の称号および認定証を付与します。

修了生へのフォローアップ体制

本講座受講生修了生へは、フォローアップを目的とした、「医療関連感染情報交換会」を年1回開催し、日々の実践の振り返りとサポートを行います。

修了生からのメッセージ

いしはた り え
石幡 理絵 社会福祉法人恩賜財団母子愛育会 総合母子保健センター愛育病院（東京都 港区）勤務



私は看護部の委員会活動で感染対策を担当していましたが、院内で感染制御活動をしていくなかで力不足を感じていました。すでに感染制御実践看護学講座を修了した当院の師長から評判を聞いていたこともあり、自分のステップアップになると考え本講座の受講を希望しました。

働きながら勉強できることに加え、自施設の問題を見つめ直して課題を見つけ、その課題について実習し、実際に改善に向けて活動ができることが本講座の一番の魅力だと思います。基礎から素晴らしい先生方に教えていただくことができ、学んだ多くのことをすぐ自施設実習で活かすことができる環境は本当に恵まれていました。そしてひとりひとりに大変丁寧な指導をしてくださり、感謝しております。

また色々な場所から集まった一緒に学んだ仲間とは現在も連絡を取り合い、相談したり情報交換したりしています。そのような仲間と出会えたことも素晴らしい財産となりました。

目的意識を持って学べたこの6ヶ月間は大変有意義なものでした。修了した今も、講座で立案した感染制御プログラムに沿って活動を継続したり、分からないことなどは授業の資料を引っ張り出して確認したりしています。この6ヶ月間は大変でしたが、自分の感染制御を考える力を養うことができたと感じます。（平成26年度修了生）



私は感染対策委員会にて活動を行っていた折、ノロウイルスのアウトブレイクを経験し、感染拡大への予期的不安に陥りました。この経験から基礎知識を得ようと考え日本病院会主催の感染制御講習会に参加し、感染制御実践看護学講座を知りました。この時、私はがん化学療法看護認定看護師の資格を取得していました。がん化学療法と感染制御には共通する部分もあり、休職せずに、さらなる知識の習得と、感染制御に関わる資格を得ることができること、感染制御の分野でのトップクラスの先生の講義を受講できることに魅力を感じ、本講座を受講しました。

感染制御の基礎を学ぶことで、より安全に療養生活を提供していくためには、組織力とチーム力が不可欠だと再認識しました。当時、当院は機能評価機構の受審を予定していました。自施設協同ラウンドで小林寛伊先生のご指摘・ご指導が病院を挙げての支援獲得につながり、環境改善が迅速に進みました。

課題提出は大変でしたが、丁寧に何度もご指導いただいたことが、学びにつながったと考えます。講座修了後にはフォローアップ研修もあり、自己の課題の成果を発表する場があり、共に進む仲間たちとの情報共有も楽しみのひとつです。頼もしい仲間と先生方のご支援を得て、今後も感染制御に取り組んでいきます。(平成 25 年度修了生)



私は自施設の感染対策チームの一員として参加した、日本病院会主催「感染制御講習会」の際に、「感染制御実践看護学講座」を知りました。感染防止対策加算 1 の施設基準にある適切な研修のひとつの認定看護師教育課程は 6 ヶ月間の休職が必要なため、参加困難と考えていました。しかし、本講座は現職業務を継続しながら研修を受けることができ、病院管理者の薦めもあり受講を決心しました。

毎週末、広島から東京までの片道 4 時間の通学が継続できるだろうかという不安はありました。しかし、新幹線の車内では「感染制御に関する書籍」をじっくり読み、日頃の勤務で確保しにくい学習時間とすることができたので、想像していたほど苦労はありませんでした。

本講座では、著名な先生方の講義により、最新情報を得ることができます。また、指定施設実習では感染制御実践戦略や全病院職員との良好な人間関係の構築等の“実際”を学ぶことで、講座修了後に、病院の感染制御の「要(かなめ)」として活動する自分の目標とするべき姿を見出すことができました。自施設実習では、実際の活動・介入を課題レポートとしてメールで提出し、指導を受け、多くの問題を解決することができました。

専従の感染制御実践看護師として、講座で共に学んだ仲間とのネットワークを大切にして、しっかり問題解決に取り組んでいこうと考えています。(平成 24 年度修了生)



私はとりたてて感染制御に熱心だったわけではなく、看護部長から感染制御実践看護学講座の話をいただいた時には、正直なところ戸惑う気持ちもありました。リンクナースでしたが、月1回1時間の会議に出る、それ以上ではなかったのです。

しかし、受講してみると、先生方の講義は初学者にもわかりやすく、最新の知見を取り入れていて刺激的でした。現在は情報化が進展し、標準的な感染対策から最新の知見までアクセスが容易になりました。ただ、小林寛伊先生の講義は厚みが違います。感染制御の“歴史そのもの”でもあり、開拓者が拓いてきた先端に居合わせていると感じました。

常に臨床・実践を重視されますが、担当者の「人間性」の重要性を強調されていたことも印象的でした。

私の勤務先は精神科病院です。感染制御に精神科がかけあわさると事態は混沌とします。例えば、認知症の患者に結核の疑いが高まった時、マスクを嫌がり病室から出歩くようなら、どうしますか。感染制御の世界で精神科はニッチかもしれない。にもかかわらず先生方は臨床での葛藤に、真摯に丁寧に応えてくれました。これは感激ものでした。

感染防止対策加算に伴う病院連携等、新たに担当する仕事もあり、私の勉強はむしろこれからでしょう。本講座は、私にとってこの上ない「入り口」であり、「ガイド」でした。私は「感染制御実践看護学講座」を“オススメ”します。(平成23年度修了生)



「感染制御実践看護学講座」は自施設の問題に焦点をおいて講義が進められていきます。常に問題点を見つけ、改善策を考察し、実践・評価してきました。行き詰ることもありましたが、先生方は親身になって悩みを聞き、適切なアドバイスをくださいました。また、共に受講している仲間とは日々親密になり、何でも相談できる大切な存在となりました。

受講後、本講座での学びが自施設において、すぐに役立ちました。それは、本講座が実務に直結しており、感染対策の Plan-Do-Check-Action サイクルが自然と身についていたからです。職員からも信頼される存在となりました。

また、本講座は修了後のフォローアップも充実しています。感染制御に関するトピックスや学会・研修の案内だけでなく、大学院主催公開講座のお知らせもあり、参加はもちろん、発表の機会もあります。実務に結びつき、その後のフォローも充実している本講座に、私はとても満足しています。

共に学び、共に活躍する仲間を心から歓迎します。(平成22年度修了生)